

森林環境税活用事業に対する意見シート

(R2年度事業)

事業名		方向性		意見・質疑等
R2-1	公益林保全整備事業 (木材増産推進課)	継続	6	【継続】 この事業は補助対象とならない、小規模な林地の切り捨て間伐を補助すると読みました。であれば、保育間伐という表現に加えて、切り捨て(出荷しない)点も明記するなど広く理解が可能な広報も必要かと思えます。
		拡大	2	【拡大】 372haの要望があがった理由はどのようなものか？ 潜在的事業候補地面積と比較して、事業目標面積が過少であるのは前々からであるが、R2年度に新型コロナによる経済的影響の余波を受けて、木材生産を伴わない事業への転換を進めたことにより、目標値以上の要望が上がっているのであれば、R3年度に事態がスムーズに収束しえないと予想される中で、この事業は拡大する必要があるのではないか。それ以外の理由においても、市町村へのPR効果による掘り起こしであれば、市町村の要望を注視しつつ検討する必要がある。
		見直し	0	
R2-2	みどりの環境整備 支援事業 (木材増産推進課)	継続	7	【継続①】 本県で国費補助への継ぎ足し補助が必要な理由を追加してもらえるとありがたいです。「2-四半期末の実績はR2目標に対し約35%の進捗である。」との指摘ですが、これは第1四半期の実績という意味でしょうか。どの四半期がよくわからない。
		拡大	0	【継続②】 皆伐地が以前より増え今後は再造林地が増えると思われるので保育事業に対する支援も引き続き重要と思う。 【見直し】 実績が約35%に低迷している理由はどのようなものか？現時点では35%程度であっても年度末には目標値に達しうるペースなのか？
		見直し	1	減少傾向の理由が、今後も継続されるか否かで判断は分かれる。現状の資料の情報では判断しえない。理由が構造的なものであれば、見直し/打開策の導入が必要。
R2-3	造林事業 [環境林整備事業] (木材増産推進課)	継続	7	【継続①】 H.27から続いた国の補助事業が廃止された後を受けて、R1から実施された事業だと思います。しかし、どのどの補助が廃止されたのかが判然としません。もし、このあたりをきちんと理解しようと思えば、造林に関わる補助金の全体像の説明が必要なのではないでしょうか。 【継続②】 健全な森づくりのために必要な事業であれば、事業者の要望に応じて増減する形ではなく、将来のあるべき姿をベースに毎年の必要量を決めた形で進めてほしい。難しければその問題点と対応策を検討してほしい。
		拡大	0	【継続③】 補助金は森林組合を通して活用されることが多いと思いますが、近年は森林組合員が減少しているのではないのでしょうか？ 組合員になるとこういった助成を受けやすいというメリットが、あまり知られていないように思います。個人的に最近、山林を取得して組合員になったところですが、若い世代の新規加入は稀とのことでした。これから山林を相続や取得していく世代に向けた補助制度の周知も合わせて必要かと思えます。
		見直し	1	【見直し】 実績が約20%に大きく低迷している理由はどのようなものか？ 減少傾向の理由が、今後も継続されるか否かで判断は分かれる。現状の資料の情報では判断しえない。理由が構造的なものであれば、見直し/打開策の導入が必要。
R2-4	森林・山村多面的機能 発揮対策支援事業 (林業環境政策課)	継続	6	【継続①】 次年度以降は、地域の自発的活動にも支援が用意されており、高知県の集落活動センターの取り組みともつなげることが出来る。森林を活用した集落支援策を県としても担っていくことが望ましいのではないかと。 【継続②】 人工林の間伐はbefore afterがイメージできますが、里山林はどのような姿が理想的で、手を入れるとどのように変化し、そこをどのように人が楽しく活用できるのか、具体的な事例やモデルを知りたいと思います。同じ場所への助成は3年までとのことですが、モデル林などを設定し、長期的継続的に手を入れられたら理想だと思います。
		拡大	1	【拡大】 山村の集落を維持するために、道路や河川などの付近の除伐を積極的に進めて、人口が減少した地域で、新たな居住者の生活環境を守るための空間づくりを積極的に進めてほしい。そうした公共の場づくりに関する補助については補助率を引き上げてもよいのではないのでしょうか？
		見直し	1	【見直し】 令和3年度は新しい事業に意向する形となっているが、地域住民による森林手入れを増やし、地域コミュニティを活性化させるために、現状から何を变えるか、新たに何をすれば実現できるかがみえてこない。

事業名		方向性		意見・質疑等
R2-5-1	指定管理鳥獣捕獲等事業委託料 (鳥獣対策課)	継続	6	【継続①】 実施場所の選択理由について、簡潔に補足してもらえると分かり易いのではないのでしょうか。 【継続②】 事業効率が良くないものの、毎年の事業改善の努力は実を結んできている。
		拡大	1	【継続③】 最近、所有林で自らワナで鹿の捕獲を試み始め、改めて捕獲の重要性を再認識した。引き続き重要と思う。 【拡大】 移住者の中では狩猟に関心を持っている人は確実に増えていると感じるため、その機運をうまく活かして狩猟者拡大に繋げてほしい。また、感覚的ではあるが、既存組織と新たに始めたい若い世代の間に価値観の違いもあるように感じるため、安全面は最重視しつつ、若い世代が参入しやすい体制も整備すべきと感じる。
		見直し	1	【見直し】 実績に対して予算額が多いのではないか。
R2-5-2	シカ個体数調査委託料 (鳥獣対策課)	継続	6	【継続①】 科学的な知見に基づく管理は不可欠だと思います。 【継続②】 調査結果を元に、今後の必要な対策がたてられていくことに期待します。
		拡大	0	【継続③】 多少の増減はあると思うが、長年増加傾向にあると思うので捕獲のほうに力を入れたらどうか。 【見直し①】 成果をHP等で公表とあるが、県としてはどう活用していくのか。また、検証作業として何年程度の間隔で実施していくのか。
		見直し	2	【見直し②】 このデータをもとに取り組み方法やエリア等を見直すと思うが、しばらくは調査をいったん休止し捕獲実績が上がるように取り組むようにすべき。
R2-6	希少野生植物食害対策事業 (環境共生課)	継続	7	【継続①】 大事な活動かと思えます。過年度より予算が倍増された成果が知りたいところです。
		拡大	0	【継続②】 事業件数の増加に伴い、実施体制を見直す必要はないか？
		見直し	0	【継続③】 深刻な状況にあると感じるため、発注遅れ等がおこらない進捗管理を望みます。
R2-7	環境学習推進事業 (生涯学習課)	継続	7	【継続①】 子ども地域学習推進事業における参加者数のうち、子どもの人数が18名でいいのか？(大学生スタッフは含めない) R3年度は、withコロナを想定した事業実施に留意してほしい。 また、R3年度の新規取り組みに関しては、環境税事業の中で類似の取り組みや連携すべき取り組みがあり、実施するのであれば、必ず連携をとるようにしていただきたい。(特に、山の学習支援事業のコーディネート担当)
		拡大	1	【継続②】 コロナ対策もあり宿泊が伴う活動は今後も難しくなりそうです。 また、森林や自然への親しみを感じるには、合宿などイベントで特別感を持って行うよりも、日帰りでも頻度高く(月1回、週1回など)接点を持つ体験があった方が、効果的ではないかと思えます。 ステイホームで行き場を失う子どもも多いと思いますので、屋外で遊べるチャンスが増えるといいと思います。
		見直し	0	【継続③】 新型コロナウイルス感染拡大によって、自然体験等への関心度は高まっていると感じる。これまでと同じやり方ではなく、今の状況にあった広報やプログラム強化によって注目される可能性は十分あると感じる。 【見直し】 現状では実施が難しい事業ではあるけれども、その重要性は失われていないと思われる。ネットでの事業展開のほか、以前は山の教材をワゴン車でとどけて、作業してもらような仕組みがあったので、そうした発想からの事業があってもよいのではないかと考えられます。予算規模の縮小は検討してもいいかもしれません。

事業名		方向性		意見・質疑等
R2-8	高校生森林環境理解事業 (高等学校課)	継続	6	【継続①】 これは上記と同じ意見です。重要性は変わりませんが、実施がむずかしければ、予算規模の縮小は検討してもよいかもしれません。
		拡大	1	【継続②】 R2年度は事業の変更をしつつ実施されているとのことだが、どのような変更をされたのか？
		見直し	0	【継続③】 実施校の拡大予定はないとあるが、今のコロナ禍は自然環境に関心を持ってもらうチャンスだと感じるため、どうすれば増やせられるかを考えて実行してほしい。
R2-9	高校生後継者育成事業 (高等学校課)	継続	4	【継続】 「安全な機械の運転方法を学ぶことができたが、限られた時間の中では実践的な運転技能の習得までは難しい。」というのであれば、時間を延長するか、事業そのものの意義を検討しなおすのがよいのではないだろうか、あるいは、シミュレーターなどの活用はできないだろうかと思います。
		拡大	3	【拡大①】 R2年度は工夫の中で実施されていることから、高校側の取り組み意欲が高い事業であることが分かる。R3年度も、withコロナを想定した事業実施に留意して、実施校の拡大も継続して取り組んでほしい。
		見直し	0	【拡大②】 学校で講習を行うにあたり、補助金が少ないとの話がありました。来年は各部活動に伴う大会と重ならないように、講習時期の改善を行っていただきたい。
R2-10	山の学習支援事業 (林業環境政策課)	継続	7	【継続①】 新型コロナの影響で派遣が難しくなっているものの、小学校を中心に学習の中に森を題材とする動きが活発化しているため、止めたくないと考えます。Wifiやパソコンを整備して、山の中から情報を直接発信するような形式を開発していったらいいかと思っています。
		拡大	1	【継続②】 R3年度は、withコロナを想定し、新しい形での活動提案などを行い、事業目標の達成に取り組んでほしい。ハンドブック作成に当たり、利用者である学校教員の協力を得ているのは良い取り組みである。プロダクトアウトではない事業展開を今後も期待したい。
		見直し	0	【継続③】 ハンドブックの内容・プログラムが、高知ならではの効果的な内容になることを期待しています。また、紙媒体のみならず動画コンテンツなどで配信すると、子ども達も見られてわかりやすいと思います。
R2-11	森林環境情報誌作成等 実施委託料 (林業環境政策課)	継続	8	【継続①】 内容もしっかりして、読み応えがあります。県庁のHPにも全てが掲載されており、最近は動画までアップされています。しかし、このページが重くてめくれなかったり、動画が県庁の担当課のところにあってはなかなかアクセスがないのではとも思います。カウンターを付けてみるのかのWEBの分析などが行えないかと思っています。
		拡大	0	【継続②】 情報誌は小学校等への配布継続により、認知が進んできている。今後は活かし方が課題になるが、その場合は、木育指導者や森林環境教育指導者の支援事業との連携も重要になる。そういった視点で、施策の相乗効果を形成していただきたい。
		見直し	0	【継続③】 ステイホームで家でできる木育や、家族で森へ出かけて楽しめる簡単な遊び方など、そういった読み物があると助かる親子が多いと思います。 【継続④】 コロナ禍によるアウトドア等への関心の高まりをうまく活かして新しい読者層獲得につなげられないか。
R2-12	森林環境学習フェア 開催委託料 (林業環境政策課)	継続	6	【継続①】 「もくもくランド」などの企画にCLTやバイオマス発電など森の新しい動きを感じてもらえる企画をいれてはいいかでしょうか。森や林業が新たな胎動をすることを訴える形です。環境絵日記の中で森に関係するものを選んで、授賞して、もくもくランドに掲示するなどの事業連携があってもよいかもしれません。
		拡大	0	【継続②】 withコロナを想定した新しい形での企画を行い、事業目標の達成に取り組んでほしい。体験学習も自宅でできるキットでの取り寄せ体験への展開など、必ずしも会場に来場する必要はなく、会場での開催期間限定での実施でなくても構わないのではないかと。(Web開催での情報発信など) 【継続③】 コロナ禍によるアウトドア等への関心の高まりをうまく活かさないか。
		見直し	2	【見直し①】 これからは、多少遠くても人が密になりにくい環境(野外・森林など)で行うイベントに、人が集まりたいと思います。森林へ人を呼ぶチャンスになりうるのではないのでしょうか？ 【見直し②】 環境学習は大事だが、学習だけでなく、将来林業を職業として意識するようなイベントにするべき。バスツアーを委託で行うとのことだが、余分な経費が増えるだけでなく、事業の丸投げのように思える。

事業名		方向性		意見・質疑等
R2-13	こうち山の日県民参加 支援事業 (林業環境政策課)	継続	7	【継続①】 R2年度は様々な改善に取り組んだことで、その成果が徐々に表れてきている。今後も改善を継続してほしい。 また、森林を活かした体験活動については、この事業以外でも多く取り組んできているので、それらとの連携についても検討が必要である。
		拡大	0	【継続②】 参加者やアクセスの増加は、野外活動への関心が高まっていることの表れでしょうか。そこで、「森林ボランティア」という言葉がどのくらい認知があるのか？この関心を受け止めるなにか新しい表現も必要になるかもしれないと感じます。
		見直し	1	森・ヒト・こうち 応援ネットがWEBにあります。これを広報の軸にする形で、もりりんの情報や今後展開されると思われる森の学習教育などのポータルサイトとして強化してはいかがでしょうか。発信形態がやや事業ごとに分断されているように思われます。また、この応援ネットはややお役所的で、整然としてますが、他方、とっつきにくさも否めません。
R2-14	こうち山の日推進事業 (林業環境政策課)	継続	7	【継続①】 しばらくは活動休止もやむを得ないと思われ。もし、活動が再開した際には団体を活動を「見える化」して、活発な団体にはさらに支援を強化するなどの対応が必要かと思えます。
		拡大	0	【継続②】 R2-12と同様に、withコロナを想定した新しい形での企画を行い、事業目標の達成に取り組んでほしい。会場に来場しなくても楽しめる工夫も今後は必要になるのではないかと。
		見直し	0	
R2-15	木育指導員活動支援事業 (林業環境政策課)	継続	2	【継続①】 よい企画なので、継続してほしい。
		拡大	2	【拡大①】 新しい取り組みに期待しています。
		見直し	3	【見直し①】 体験活動については、この事業以外でも多く取り組んできているので、それらとの連携についても検討が必要である。 【見直し②】 子育て世代の木製品への関心は高いと感じるため、どうすればこの取り組みが高知に根付いていくか作戦を練り直してほしい。 【見直し③】 団体の申請による、木育指導員活動ということですが、指導員としての力量をはかる審査項目などはあるのでしょうか。
R2-16	鳥獣対策事業 [シカ被害対策啓発 事業委託料] (鳥獣対策課)	継続	8	【継続①】 在地の猟友会の視点からいえば、ムラからの他出者(高知市在住など)が狩猟に帰村する形が一番問題が少ないように思えます。こうした層をターゲットにした活動ができないかと考えています。
		拡大	0	【継続②】 withコロナ下でもしっかりと対応して、意欲的に活動を展開している。
		見直し	0	【継続③】 「食」をからめた接点を作ると、狩猟にもより関心が高まると思います。解体・ジビエ料理などの体験までできると効果的だと思います。
R2-17	希少動植物保護対策事業 [普及啓発事業委託料] (環境共生課)	継続	6	【継続①】 動物サンプルを多数保管している四国自然史研究所などとの連携がなければ、そうした連携を考えてみてはいかがでしょうか。
		拡大	0	【継続②】 パンフレット配布だけの時代は終わっており、今後はパンフレットの活用だったり、Web連携などへの展開も併せて行う必要がある。 【見直し①】 パンフレットの広く薄い配布等では効果がどの程度あるかわかりません。シカ関連の事業と絡める、小中学校への環境教育に盛り込むなどしたほうが効果的ではないでしょうか。
		見直し	2	【見直し②】 動植物に対する関心が低くなっているという現状に企画展を開催、パンフレット配布ということだけでなく、県民、学生等に学習という形で認知してもらうほうが良いのではないかと。

事業名		方向性		意見・質疑等
R2-18	運営委員会等 開催費 (林業環境政策課)	継続	7	【継続①】 オンライン開催などを積極的に検討してよいのではないのでしょうか。節約した分、議論のできる議題と時間を確保するという考えです。
		拡大	0	【継続②】 情報は資料しかないなので、伝わる資料作りをお願いしたい。
		見直し	0	【継続③】 個別の事業の精査よりも、全体的な骨格や新しい事業の発案などに、委員の多様な人材のアイデアやノウハウを活用したいです。
R2-19	林業大学校(短期課程) 研修業務等委託料 (森づくり推進課)	継続	7	【継続④】 現場からの意見を吸い上げ事業を作るべき。県が作成する事業予算の増減承認の会ならあまり意味がない。
		拡大	0	【継続⑤】 森林環境保全に関する20の事業が、どのような目的のもとに、どのように構造化されているのかわかると、理解しやすいものになると思います。
		見直し	0	【継続⑥】 森林環境保全に関する20の事業が、どのような目的のもとに、どのように構造化されているのかわかると、理解しやすいものになると思います。
R2-20	木の香るまちづくり 推進事業 (木材産業振興課)	継続	6	【継続⑦】 毎年度末に開催されています。これは何かの理由があるのでしょうか。時期を分散する方が参加者が増える可能性もあるように思われます。例えば、夏休みの時期などです。年度末は、有職の方には参加が難しい時期と思われます。
		拡大	1	【継続⑧】 定員満員になっているところもあり、需要はあると思われる。
		見直し	0	【継続⑨】 DIYの需要が高まってきているため、この関心層を森林ボランティアに繋げるような流れができないか。もしくは、DIY初心者向けの丸ノコ講座などの講座をつくって木材と接する機会を増やすこともきっかけにはなるかもしれない
R2-20	木の香るまちづくり 推進事業 (木材産業振興課)	継続	6	【継続⑩】 木育教育との連携をぜひ図っていただきたいです。
		拡大	1	【継続⑪】 屋外景観施設等整備に関しては、外構材等のメンテナンス指針の作成などとも連動する必要がある。劣化しやすい屋外での利用は劣化状態にある木製品を長期に人目にさらすことになり、結果として木材の印象を悪くしてしまう。目的は木材の良さをPRするための取り組みであり、メンテナンスや更新の目途が立たない中では屋外利用は避けたほうが良いのではないかと。
		見直し	0	【継続⑫】 施設の施工候補(市町村、学校、福祉法人等)を、実際に木造化した施設見学・勉強会などへ招待すると、周知に効果的ではないのでしょうか。
R2-20	木の香るまちづくり 推進事業 (木材産業振興課)	継続	6	【継続⑬】 施設の見学候補(市町村、学校、福祉法人等)を、実際に木造化した施設見学・勉強会などへ招待すると、周知に効果的ではないのでしょうか。
		拡大	1	【継続⑭】 施設の見学候補(市町村、学校、福祉法人等)を、実際に木造化した施設見学・勉強会などへ招待すると、周知に効果的ではないのでしょうか。
		見直し	0	【継続⑮】 県産の大型木製品は、デザイン性はあまり重視されていないと感じるため、欲しくなるようなデザイン性の高い商品開発も次の展開として検討してほしい

〈R3年度新規事業(資料3)〉

事業名		意見・質疑等
(事業 番号) 5-3	森林保全シカ捕獲 事業委託料 (鳥獣対策課)	<ul style="list-style-type: none"> ・補足資料では、県中部の県境付近の頭数増加の指摘もあり、設定している5市町での実施で改善されるのかが懸念される。また、こういった取り組みは、継続事業になる場合が多いため、捕獲頭数に余裕があるのであれば、目標値を引き上げて、事業費の累計支出を抑えるようにすべきではないか。 ・指定管理鳥獣捕獲等事業委託料事業のところでも述べたが、鹿被害について改めて実感しているので少しでも意欲的に取り組めるよう進めていくのは賛成です。
(事業 番号) 13	森林環境税座談会等 実施委託料 (林業環境政策課)	<ul style="list-style-type: none"> ・県の環境税の成り立ちを振り返り、その後の森や木材利用の変遷、さらには、国の環境税との切り分けがわかる形で参加者には情報提供をしていただけないかと思っています。 ・R3年度もwithコロナへの配慮が必要であることを考慮すると、対面座談会の実施には格段の注意が必要になる。対面座談会を回避する意識も参加者には出てくるだろうし、一般参加者の参加を期待できなくなると思われる。座談会に代わる非対面での意見収集について、検討しておくべきではないか。 ・座談会の過去の実績はどうか。参加人数が少ないなら他のやり方が必要。